



調布市は市制施行70周年

市報

# ちようふ



令和8年(2026年)  
No.1810

2/20

CONTENTS(主な内容)

ジモティースポット調布緑ヶ丘店の開設	2
「みまモーニング」試行実施校の拡充	3
気づいてください!体と心の限界サイン	6
1~3月は若者の 悪質商法被害防止キャンペーン期間	7
シニアのカリスマがここに集結!	12

春はすぐそこ

## 深大寺周辺の イベントに 出かけませんか?



3/3  
火

3/4  
水

深大寺だるま市

3/20  
祝

深大寺城跡で和を楽しもう。

3/1~  
日

「神代ワンバス」見つけてキャンペーン



(産業振興課)

詳細は2面へ

手をつなぐ樹 480



これからの生き方

なぜ、働き方を改革する必要があるのだろうか。業務遂行に当たり、効率性の追求により個人が自由に使える時間をより多く確保し、楽しい私生活の時間をより充実させるように努める。生産性の低下を招くことのない範囲で。現在、多くの人が賛意を示す考え方だろう。今でも「昭和のころは」と、数十年前の働き方がよく引き合っている。サビ残業の多い長時間労働が常態化して家庭サービスがなおりにされた悪しき例として。私もそのような見方を否定はしない。ただ、都心に通勤者として夕餉の時間帯に帰宅することが困難であったのは事実だが、それにしてももう少し家庭に時間を割くべきであったと今にして思う。だが、違う側面を思い起こせば、決して一方的に不当な労働を強制されていたとは思われない。昭和の後半、またたく間に日本が発展途上国から世界第2の経済大国に駆け上る中で、日本中に沸き立つような高揚感が溢れ、経済成長がどこまでも続くことを信じて疑わないような陶酔状態に多くの人が身を置いていた。

私は、今こそ多面的な議論が必要だと考える。資源はなく、高度な技術で持ち得た製品を世界に売り込むことよってのみ成立するわが国経済。しかし、世界中の競争に勝ち抜くためにはどのような、あるいはどこまでの勤勉さが求められるのだろうか。豊かな人生のためには適正なライフワークバランスが必須。「令和の働き方」。もう私の年代が口をささむテーマではない。

調布市長 友貴樹



配布中止  
連絡フォーム

市報ちようふは、市庁でもご覧いただけます

